

第2回北陸圏広域地方計画懇談会での主な意見と対応

1. 日時;平成20年6月4日(水) 13:30~16:00
2. 場所;ホテル金沢
3. 出席者(敬称略);西頭座長、片山委員、酒井委員、祖田委員、高山委員、中村委員、長尾委員、安島委員、柳井委員、吉田委員 (計10名)

4. 主な意見

中間整理について

【現状と課題について】

- ・ 現状・課題の整理に当たっては、北陸圏の特徴や特有の課題が分かりやすく整理されていることが必要。

(対応) 現状や課題のタイトルや文章の中で、北陸固有の特徴等を明示的に追記・再整理。

- ・ 雪に関する取り組みの記載が弱い、北陸圏にあっては、雪の視点が重要であるため、関連記載を充実することが必要。

(対応) 北陸の課題の項で、雪に関する課題の記載順位や記載内容の再整理。

【将来像】

- ・ 「環日本海諸国をはじめとした東アジア」との記載が用いられており、三大都市圏を後背地とした日本海側の玄関口として北陸圏を位置づけていることは大いに評価できる。

(対応) ご意見を踏まえ、今後副題について検討予定。

広域連携プロジェクトについて

【プロジェクト全体】

- ・ 広域連携プロジェクトでは、県や市町村を巻き込んだ幅広い検討を行うべき。その際、議論を活性化させるため、具体策を示すことも必要。

(対応) 県や市町村など関係機関からの意見反映を図り、プロジェクトを検討していく。

- ・ 地域活性化において重要な人づくりなどの観点からプロジェクトを充実することが必要。

(対応) プロジェクト全体にわたって、人材育成への取組を各コンセプトに合わせ記載。

【I. 防災技術・地域コミュニティを活かした北陸防災力強化プロジェクト】

- ・ 広域交通において雪対策を進めることなど、雪に強い地域づくりについて記載することが必要。
- ・ 北陸圏の特性は災害の多い地域であり、災害に強い地域づくりが必要。

(対応) 雪害対策や信頼性の高い陸上・海上の交通ネットワークの形成を提案。

【Ⅱ. 立山・黒部や白山など山岳地域の自然環境保全・活用プロジェクト】

- ・ 富山の標高 3,000mの立山連峰から富山平野を経て海拔-1,000mの富山湾に続く高度差 4,000mの水の循環、命の循環のモデルを地域活性化に結びつけていくことも必要。

(対応) 山岳地域から日本海の海洋までの水循環系の構築に向けての組織横断的な取組を提案。

【Ⅲ. 住み良さ日本一！日本海沿岸の接続型都市圏形成プロジェクト】

- ・ 都市的なサービスも含め生活圏域をしっかりと構築するとともに、線状に連なる都市をコンパクトに繋げた圏域形成が必要であり、料金抵抗の克服など近接性向上に寄与する北陸新幹線の開通効果を高める取組が必要。

(対応) 北陸新幹線の開通を見据えた、身近な生活サービスや都市機能の強化と広域的な連携による高次都市機能の効果的・効率的な強化を提案。

- ・ 北陸ならではの子育て環境を維持していくため、子育てへの支援が重要。
- ・ 中高年の労働者が多い中で、こうした人々が今後も働いていける地域づくりも必要。

(対応) こども、子育て世代、高齢者などの誰もが安心・快適に暮らせる生活環境の充実を提案。

- ・ 人口減少下にあっても人を集めることができるよう、「暮らしやすい場所」という情報発信が必要。

(対応) 定住促進に向けた北陸圏の強みである暮らしやすさの情報発信の取組を提案。

【Ⅳ. いきいきふるさと・農山漁村活性化プロジェクト】

- ・ 中山間地域に住み続ける上での日常生活の利便性の確保を念頭に、防災や防犯への備え、ICTを活用した高次医療や救急へり、高速交通の充実による救急医療の充実などが必要。

(対応) 医療などへのICTの多様な利活用や救急医療機関への到達時間の短縮への取組を提案。

【Ⅴ. 東アジアに展開する日本海中枢拠点形成プロジェクト -産業-】

- ・ 人材の育成と職場の確保に向けて、連携して取り組んでいくことが必要。

(対応) 優秀な人材の確保・育成に向けた産学官交流・連携の取組を提案。

- ・ 炭素繊維の航空機や自動車への活用促進など、富山のバイオや医薬、石川の機械、福井の繊維など得意とする産業が先端技術により連携することによる新産業創出への取組が必要。

(対応) 北陸圏の持つ産業集積を活かした産業クラスター形成への取組を提案。

- ・ 中国の大学城のような産業活性化に資するキーテクノロジーによる大学の連合組織化も重要。

(対応) 産業振興に向けて、県を越えた大学連携の取組を提案。

【Ⅴ. 東アジアに展開する日本海中枢拠点形成プロジェクト -物流-】

- ・ 東アジアへの日系企業の立地動向や極東での取組を進めるロシアとの関係など、環日本海経済圏の動向を見据え、港湾ごとの特色ある展開を前提とした国際物流戦略の構築が必要。その際、物流コストを下げる北陸圏内の広域交通ネットワークの強化に向けた取組も必要。

(対応) 環日本海における多様な輸送経路の充実など国際物流機能の強化に向けた取組を提案。

【VI. 北陸発エネルギー・環境技術拠点形成プロジェクト】

【VII. 食料供給力増強・食の北陸ブランド展開プロジェクト】

- ・「世界的な人口爆発」、「地球温暖化」など全世界的な課題への対応という観点から国土利用の中で、「林地」「農地」の利用を記載していくことが必要。

(対応)「VI. 北陸発エネルギー・環境技術拠点形成プロジェクト」で、地球環境保全などへの里地里山の役割研究などの取組を提案。

「VII. 食料供給力増強・食の北陸ブランド展開プロジェクト」で、農林水産業の強化を提案。

【VIII. 高速交通基盤を活かした北陸国際観光交流圏形成プロジェクト】

- ・中国や香港、台湾など海外観光客のニーズ変化を捉えた、食べ物、雪、歴史・文化など北陸圏の魅力を活かした産業観光、エコツーリズム、環境観光、景観観光といった最先端の取組が必要。

(対応)北陸圏の持つ多様で豊かな資源を活かした、国際的にも競争力のある観光交流圏形成に向けた魅力ある観光エリア、観光メニュー充実などの取組を提案。

- ・高速交通システムの整備を踏まえて、多くの潜在する観光資源を掘り起こし連携した、セントレアから入国し小松空港から帰国するような東アジアからの観光コースの構築が必要。

(対応)北陸圏の持つ多様で豊かな資源の活用した広域的な観光コースの充実を提案。

- ・会議などを開催する際、食や宿泊などもパッケージでセットしてほしい、といった来訪者のニーズに応えられるような、地域情報システムの構築が必要。

(対応)県を越えた連携組織の強化による観光情報発信やキャンペーンの展開などの取組を提案。

【IX. 次世代に継承する日本海沿岸地域の環境保全プロジェクト】

- ・地球温暖化がもたらす異常気象によって災害規模が拡大する中で、地球温暖化などへの対処には、国内だけに限らず、国際的な協力に関する記載が必要。

(対応)地球温暖化など、環日本海地域における環境問題解決への国際協力の取組を提案。

その他

【ブロック間の連携】

- ・広域ブロックごとの成長を考える上で、現下の一極集中の是正に向けて、大都市圏と地方圏の関係を今後どうしていくのか、その方向性の整理が必要。

(対応)中部圏など大都市圏をはじめ他圏域との連携のあり方について、5章で具体化を検討。

【プロジェクトの推進体制】

- ・多くの主体者間の情報共有と参加の場の形成、関係機関の役割分担などを明確するなど、広域圏としての一体感を高め、プロジェクトを推進する体制づくりを進めることが必要。

(対応)広域的、組織横断的な取組体制構築、プロジェクトのモニタリング体制や仕組みについて、6章で具体化を検討。

(以上)